

## 評価細目の第三者評価結果（高齢分野）

## A-1 生活支援の基本と権利擁護

## A-1-(1) 生活支援の基本

特養・通所 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A①</span> A-1-(1)-①	第三者評価結果
利用者一人ひとりに応じた一日の過ごし方ができるよう工夫している。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>入所前の面談において、今までの暮らしが継続できるように、家族からの聞き取りや他施設からも情報収集を行っている。その上で、生活環境や趣味嗜好等、アセスメントし、今までの利用者の生活習慣や意向を尊重したケアプランを作成している。また、毎月、グループ会議を開催して、職員間でプランを共有し、利用者一人ひとりの希望や意向を取り入れ、その人らしい暮らしが送れるよう支援している。例えば、編み物が好きな利用者には家族に毛糸を購入してもらい作品づくりを楽しんでもらっている。また、生活が不活発になりやすい利用者には、離床している時間の確保やなるべく日の当たる時間を設ける等の支援により、利用者に合わせた環境を整備したことで、利用者の意欲や食欲の改善につなげている。</p>	
改善できる点／改善方法：	
訪問 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A②</span> A-1-(1)-①	第三者評価結果
利用者の心身の状況に合わせて、自立した生活が営めるよう支援している。	A・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p>	
改善できる点／改善方法：	
養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A③</span> A-1-(1)-①	
利用者の心身の状況に応じた生活支援（生活相談等）を行っている。	
<p>良い点／工夫されている点：</p>	
改善できる点／改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A④</span> A-1-(1)-②	第三者評価結果
利用者一人ひとりに応じたコミュニケーションを行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>日々、利用者の言葉に耳を傾けたり、表情や身振り等から利用者の意向や気持ちを汲み取っている。意思疎通が困難な利用者については、表情等、いつもと違う様子であるかどうか推察しつつ、意向</p>	

把握に努めるとともに、家族に手紙等で連絡を取り、本人の理解に努めている。また、難聴の利用者に対しては、大きな声でゆっくりと話したり、筆談で伝えたりして工夫している。また、これらの情報をケース記録に残すことで、職員間で情報共有を図っている。
改善できる点／改善方法：

### A-1-(2) 権利擁護

特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑤</span> A-1-(2)-①	第三者評価結果
利用者の権利擁護に関する取組が徹底されている。	Ⓐ・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>虐待・身体拘束廃止に関するマニュアルを作成している。毎年、利用者の権利擁護や成年後見制度等の勉強会を行っている。また、虐待防止検討委員会を設置し、職員の言葉づかいやスピーチロック等に気づいた場合、上司から職員に対応方法についての助言・指導を行っている。さらに、身体拘束等の適正化委員会を設置し、身体拘束等の適正化について組織的に取り組んでいる。自傷行為等があり、やむを得ず一時的に身体拘束を行う場合には、家族の同意を得て、医師の指示の下、関係法令に示された事項や3要件を確認の上、実施し、記録に残している。</p>	
改善できる点／改善方法：	

## A-2 環境の整備

### A-2-(1) 利用者の快適性への配慮

特養・通所・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑥</span> A-2-(1)-①	第三者評価結果
福祉施設・事業所の環境について、利用者の快適性に配慮している。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>室内や廊下には、温度計が設置され、快適な室温が保たれている。コロナ禍の状況にあり、特に感染予防のため時間を決め、定期的に換気している。掃除は、共有スペースを中心に業者に定期清掃を発注するとともに、利用者の担当職員が、居室の掃除等を行い、利用者が快適に過ごせるよう環境整備している。また、共有スペースに利用者の趣味の作品(編み物や塗り絵等)や活動できるものを置くことで、他の利用者が興味を持っていただけるようにする等、生活の活性化につながっている。利用者代表委員会を毎月行い、環境の快適性について、利用者の意見を聞く機会を設けている。また、安全衛生委員会を設置し、週1回の見回りをするとともに、月1回、産業医が巡回し、安全衛生上の問題点がないか確認している。各居室は馴染みの家具や調度品類が持ち込まれたり、作品や飾り等が置かれたりして、利用者がくつろいで過ごせる環境になっている。</p>	
改善できる点／改善方法：	

### A-3 生活支援

#### A-3-(1) 利用者の状況に応じた支援

特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑦</span> A-3-(1)-①	第三者評価結果
入浴支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>体温、血圧等のバイタル測定をし、健康チェックを行い、体調を見て、入浴の可否を判断している。週2回以上は入浴支援を基本とし、できる限り同性介助に配慮したケアに努めている。利用者が体調不良等で入浴できない場合は清拭で代替している。また、利用者の自立に向けてアセスメントし、心身の状況に合わせた入浴方法(一般浴、椅子浴、ストレッチャー浴)で支援している。入浴時の塗り薬等の処置は看護師が行っている。気分が乗らず入浴を拒まれる場合には、声かけを工夫する等状況に合わせて対応し、本人の思いを大切に、柔軟な対応を行っている。また、入浴介助の際には、プライバシーに配慮し、タオルやカーテンを使用している。</p>	
改善できる点／改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑧</span> A-3-(1)-②	第三者評価結果
排せつの支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>排せつに関するマニュアルを作成している。また、排せつチェック表を基に排せつ間隔のパターンを把握している。できる限り自然排便を促すため薬草茶等を使用している。さらに、トイレでバランスを崩して頭を打たないように手すりには必要に応じてクッション材を巻き、安全な環境にしている。一方で、清潔安心サポートチームを設置し、排せつ支援方法や使用する用品の選択について検討している。委員会の職員が中心となって利用者ごとにトイレまでの移動及び排泄時の動作、おむつの種類等をアセスメントし、できる限り、日中はトイレで排せつできるよう、排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	
改善できる点／改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑨</span> A-3-(1)-③	第三者評価結果
移動支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>利用者一人ひとりの身体状況に応じて複数種類の車いすを使い分けている。歩行の支援についても杖や押し車、歩行器等、歩行状態に合わせて利用するよう支援している。利用者に応じた移動手段や移乗方法について居室の壁に掲示することで、職員が状態を共有し、安全な移譲手段、方法での支援が可能となっている。</p>	
改善できる点／改善方法：	

### A-3-(2) 食生活

特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑩</span> A-3-(2)-①	第三者評価結果
食事をおいしく食べられるよう工夫している。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>食事は外部委託であるが、栄養士が関わり、栄養面等で配慮している。年2回、嗜好調査をし、献立検討委員会で要望を伝え、献立に反映させている。定期的に変更できる献立と毎月、変更できるおやつがあり、食事を選択できる機会が充実していることで、食事が楽しみなものになっている。また、掲示板には1週間分の献立を張り出し、食堂の入り口には見本食を置くことでわかりやすくしている。食事前に体操をしたり、食事中は音楽を流す等して、食事を安全においしく楽しい雰囲気の中で食べられるように配慮している。</p>	
改善できる点／改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑪</span> A-3-(2)-②	第三者評価結果
食事の提供、支援を利用者の心身の状況に合わせて行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>利用者の体格、嚥下状態等をアセスメントし、身体状況に合わせた食形態や栄養面に配慮した食事を提供している。管理栄養士を中心に栄養ケア計画書を利用者全員に作成し、栄養マネジメントを行っている。栄養士は日頃から利用者の食事の様子を見学し、毎日の摂取量を確認して調理員や家族と相談し、必要時には捕食を準備している。職員は利用者にあった自助具を検討し、利用者が残存機能を活かして自分で食事ができるよう支援している。</p>	
改善できる点／改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑫</span> A-3-(2)-③	第三者評価結果
利用者の状況に応じた口腔ケアを行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>毎食後に口腔ケアを行っている。健康増進チームが中心となって、年2回、歯科衛生士による研修を開催しているが、食物残渣に対する意識を高めたり、磨き残しが無いように歯磨き指導を受ける事で誤嚥性肺炎を起こす利用者が減少したとの事である。また、3か月に1回は歯科医師、月2回は歯科衛生士の訪問による口腔ケアを実施している。ガーグルベースン等を準備し、残存機能を活かして自分で口腔ケアができるように支援している。</p>	
改善できる点／改善方法：	

### A-3-(3) 褥瘡発生予防・ケア

特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A⑬</span> A-3-(3)-①	第三者評価結果
褥瘡の発生予防・ケアを行っている。	Ⓐ・B・C

<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>褥瘡対策に関する手順書を作成し、それに準じて対応している。また、職員会議等で職員に対して褥瘡についての研修を行っている。褥瘡対策検討会議を2ヶ月ごとに開催し、褥瘡のある利用者の把握や対応法等について検討している。対象者の褥瘡や身体状態をアセスメントし、体圧分散、ずれ、摩擦防止のためにマットレスやクッション等の用具の使用と合わせて、体位変換やポジショニング等のケアを行っている。また、褥瘡のケアとして処置や栄養補助食品を用いた栄養状態の改善等を行っている。褥瘡発生予防として、褥瘡のリスクアセスメント・ツールであるOHスケールを用い、発生リスクを見極め、体圧分散、ずれ、摩擦の軽減、スキンケア、栄養管理といった支援に努めている。</p>
<p>改善できる点／改善方法：</p>

#### A-3-(4) 介護職員等による喀痰吸引・経管栄養

<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A⑭</span> A-3-(4)-①</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>介護職員等による喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制を確立し、取組を行っている。</p>	<p>Ⓐ・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>安全委員会を設置し、吸引を含む医療的ケアの内容や実施体制を検討している。毎月の委員会ではヒヤリハットを確認する等、介護事故発生予防及び再発防止に向けた話し合いを行っている。喀痰吸引に関する指針を作成し、各職種の責任を明確にしている。また、指針に基づき、手技の確認を年1回以上実施している。看護師による研修指導により、多くの介護職員が研修を終了しており、日中は基本的には看護職員が喀痰吸引を行っているが、夜勤帯においても必ず1名以上の職員で喀痰吸引ができる体制をとっている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

#### A-3-(5) 機能訓練、介護予防

<p>特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 2px;">A⑮</span> A-3-(5)-①</p>	<p>第三者評価結果</p>
<p>利用者の心身の状況に合わせ機能訓練や介護予防活動を行っている。</p>	<p>Ⓐ・B・C</p>
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>柔道整復師3名を交代で配置し、ほぼ毎日、2時間ほど、マッサージや立位、歩行訓練等のリハビリが提供されている。担当の介護職員が機能訓練計画書を作成しているが、作成に関しては柔道整復師からのアドバイスを活かした計画立てをして、生活の維持向上に努めている。買い物に出かけた際に、商品を自分で選べるよう立位の訓練に取り組む事や、移動の際の短い距離はシルバーカーで歩く等、訓練の目的を明確にして、日常生活の動作にリハビリを取り入れる等の工夫を行っている。計画書は3か月ごとに見直しが行われている。また、日常生活の中で身体状況の変化を感じた時は、嘱託医や看護師と連携し、家族に報告し、受診につなげている。</p>	
<p>改善できる点／改善方法：</p>	

### A-3-(6) 認知症ケア

特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A16</span> A-3-(6)-①	第三者評価結果
認知症の状態に配慮したケアを行っている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>毎年一人は、認知症介護実践者研修を受講し、その研修内容を復命研修として職員間で共通理解している。毎月、精神科医師の往診があり、看護職員と連携して、医療的支援が受けられる体制を構築している。必要な利用者には24時間シートを活用して行動を把握し、記録に残し、担当者会議等で情報共有を図るようにしている。夜間眠られず、徘徊症状が出現する場合には、安易に眠剤等の使用を検討するのではなく、日中活動の見直しや徘徊時に一緒に行動を共にして気分を落ち着いてもらう等、寄り添った支援に努めている。</p>	
改善できる点/改善方法：	

### A-3-(7) 健康管理、衛生管理

特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A17</span> A-3-(7)-①	第三者評価結果
日常の健康管理が適切に行われている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>全利用者に対して、毎日の検温と高血圧等の方には毎日血圧測定をする等、心身の状態に合わせて健康チェックを行い、記録する等の健康管理を行っている。また、食事摂取量や排せつ状況についても毎日、チェックし、記録している。体調や様子に変化が見られた場合には、随時、血圧と酸素飽和度を測定し、看護師に報告している。インフルエンザや新型コロナワクチン接種は施設内で実施できるよう嘱託医と連携している。服薬については準備から配薬まで看護師が責任を持って実施している。また、看護師が中心となって、高齢者の健康管理や緊急時の対応に関する研修を行っている。</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A18</span> A-3-(7)-②	第三者評価結果
必要な時には、迅速かつ適切な医療が受けられる体制が整備されている。	Ⓐ・B・C
<p>良い点/工夫されている点：</p> <p>緊急時対応マニュアルが作成され、健康面に変調があった場合等、発見者から看護師そして必要に応じ、相談員、家族等、嘱託医に連絡が行くようになっている。緊急時は、協力医療機関と連携を密にし、対応している。</p>	
改善できる点/改善方法：	
特養・通所・訪問・養護・軽費 <span style="border: 1px solid black; padding: 0 2px;">A19</span> A-3-(7)-③	第三者評価結果

感染症や食中毒の発生予防を行っている。	㉠・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>コロナ禍の只中、感染対策検討会議を設置し、感染症の流行状況に応じて随時会議を開催し、対応方法を検討している。感染BCPを策定し、有事の際はそれに基づき、対応したとの事である。各種マニュアルを策定し、見直しをして、更新している。新型コロナウイルスの疑いがあった利用者については、個室対応やガウン等を用いた感染拡大予防に努めている。職員は出勤前と出勤時に検温を行い、日々、健康チェックをし、職員から利用者への感染を予防している。</p>	
改善できる点／改善方法：	

### A-3-(8) 終末期の対応

特養・訪問・養護・軽費 ㉠ A-3-(8)-①	第三者評価結果
利用者が終末期を迎えた場合の対応の手順を確立し、取組を行っている。	㉠・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>看取り介護マニュアルや終末期に関する指針が作成され、職員は手順に沿って対応している。入居時に、急変時の対応も踏まえて、終末期等に関する家族の意向を確認している。さらに、看取り期に入ったと判断した場合には、現在の本人の状況等について医師や相談員から家族に説明し、今後の対応について家族と話し合う等して、支援している。終末期ケアにあたっては、医療と連携するとともに、個室対応にする等、家族が面会したり、宿泊できる環境を整えている。終末期のケア後は、職員に対して精神的な負担への配慮と次回のケアにつなげるために、振り返りを行っている。</p>	
改善できる点／改善方法：	

## A-4 家族等との連携

### A-4-(1) 家族等との連携

特養・通所・訪問・養護・軽費 ㉠ A-4-(1)-①	第三者評価結果
利用者の家族等との連携と支援を適切に行っている。	㉠・B・C
<p>良い点／工夫されている点：</p> <p>コロナ禍により、家族の面会の頻度が減少している状況にあるが、衣類持参に際には、声をかけ、状況を伝えたり意向を聞き取ったりしている。また、ケアプラン更新時には電話で意向を聞いている。さらに、利用者に病気や怪我等の体調変化があった時には、家族へ利用者の状況を報告している。受診する際には、医師に施設での状態がわかるよう、看護師が「受診連絡シート」を作成している。また、家族からの相談があった場合は、直接、対話できる場を設けているが、コロナ禍となり、面会できない時は電話などで対応している。</p>	

改善できる点／改善方法：

## A-5 サービス提供体制

### A-5-(1) 安定的・継続的なサービス提供体制

訪問 <input type="checkbox"/> A② A-5-(1)-①	第三者評価結果
安定的で継続的なサービス提供体制を整え、取組を行っている。	A・B・C
良い点／工夫されている点：	
改善できる点／改善方法：	